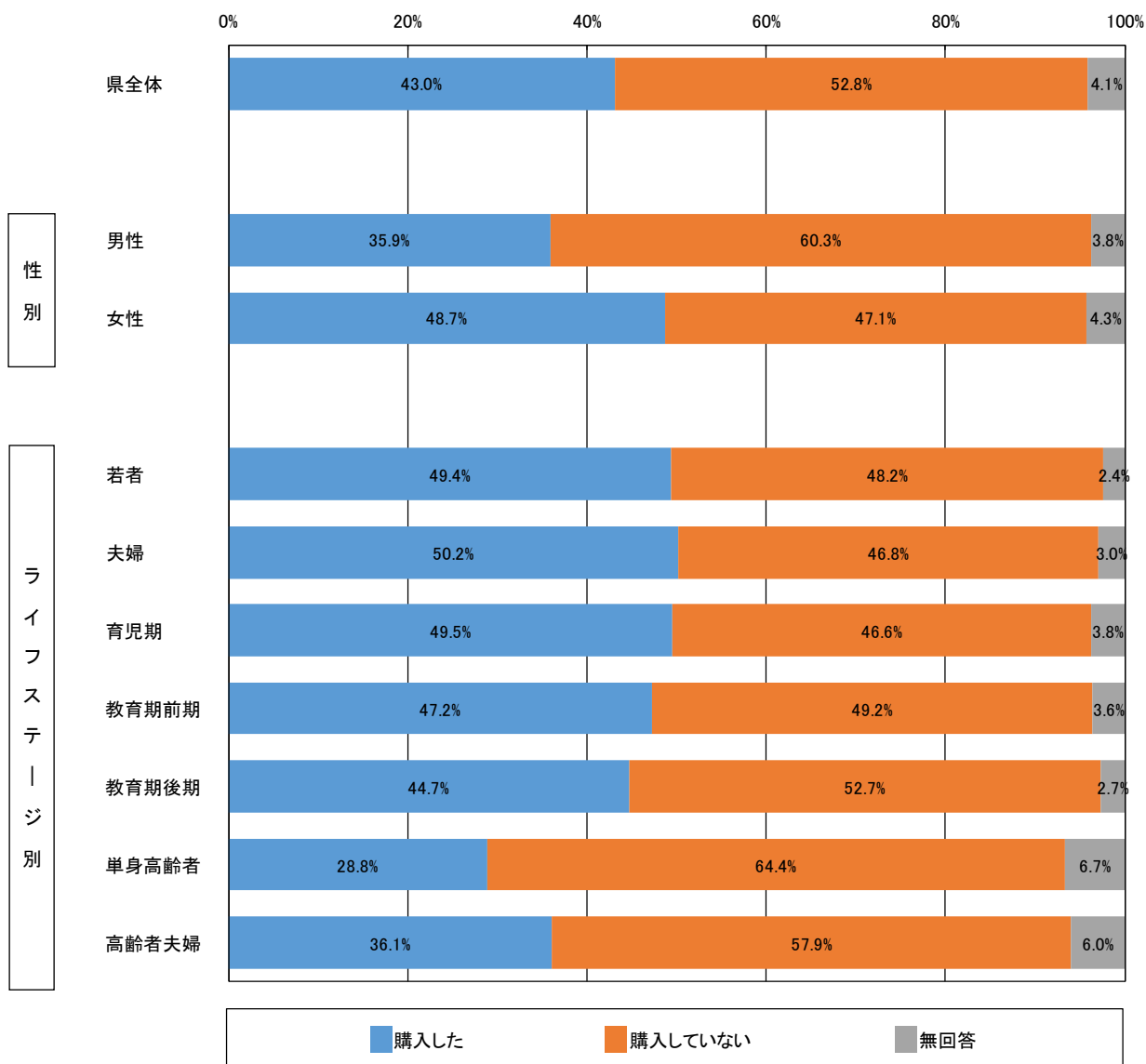


### 3. 県民の生活に関する意識やニーズについて

#### 3-1 県内消費の拡大について

##### (1) 消費税対策での前倒し購入（問10）

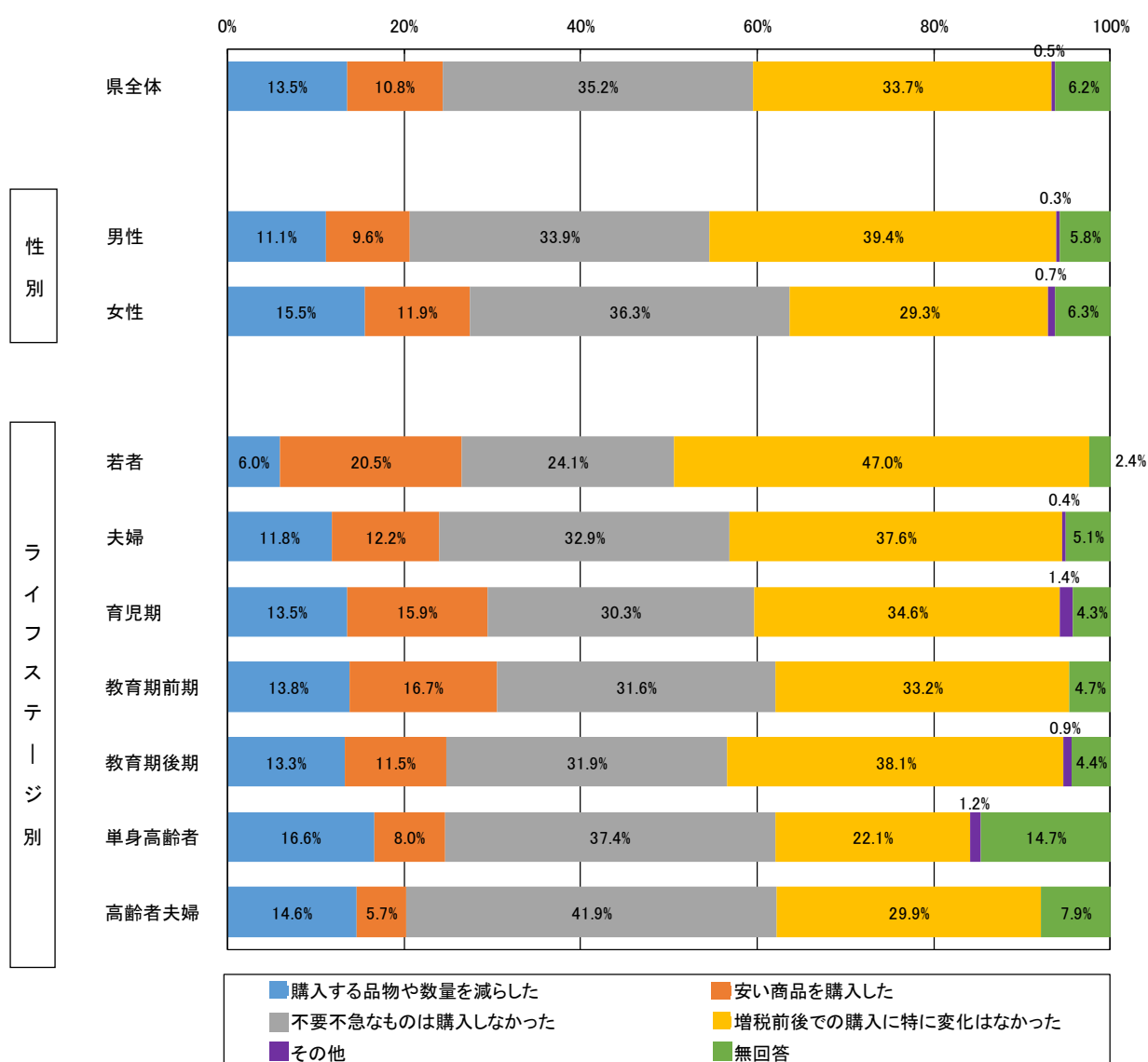
- 消費税対策での前倒し購入については、「購入していない」（52.8%）が「購入した」（43.0%）より多くなっています。
- 性別にみると、『男性』では「購入していない」、『女性』については「購入した」が多くなっています。
- ライフステージ別にみると、『若者』『夫婦』『育児期』では「購入した」が多く、『教育期前期』『教育期後期』『単身高齢者』『高齢者夫婦』については「購入していない」が多くなっています。



## (2) 消費税引き上げ後の買い物 (問 12-①)

### ■ 引き上げ後から今までの対応

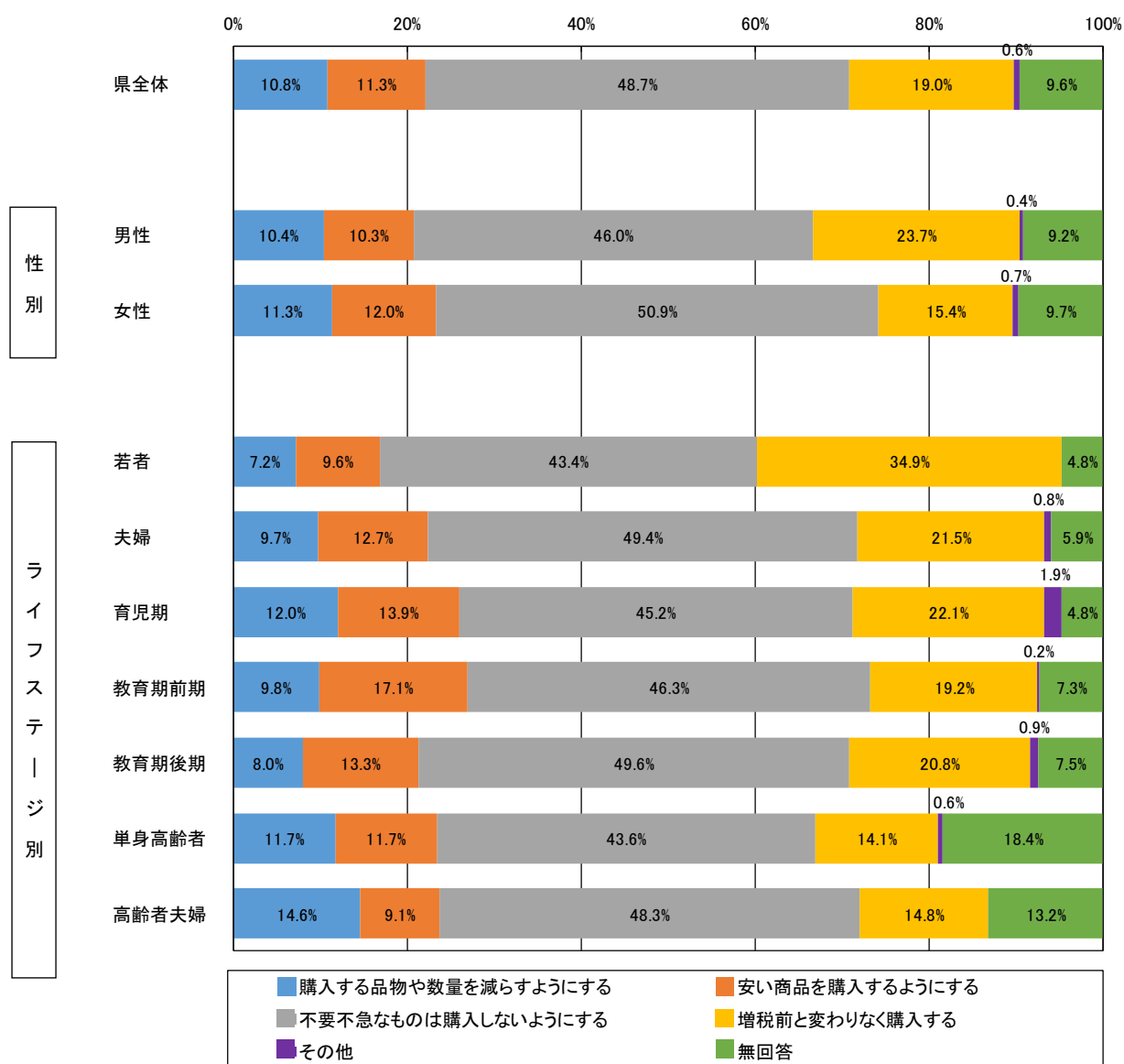
- 消費税引き上げ後の買い物に対する引き上げ後から今までの対応については、「不要不急なものは購入しなかった」(35.2%) が最も多く、次いで「増税前後での購入に特に変化はなかった」(33.7%) となっています。
- 性別にみると、「不要不急なものは購入しなかった」については、『女性』(36.3%) が『男性』(33.9%) に比べ多くなっています。
- ライフステージ別にみると、『若者』『夫婦』『育児期』『教育期前期』『教育期後期』では「増税前後での購入に特に変化はなかった」が最も多く、次いで「不要不急なものは購入しなかった」となっています。『単身高齢者』『高齢者夫婦』については、「不要不急なものは購入しなかった」が最も多く、次いで「増税前後での購入に特に変化はなかった」となっています。



## (2)消費税引き上げ後の買い物（問12-②）

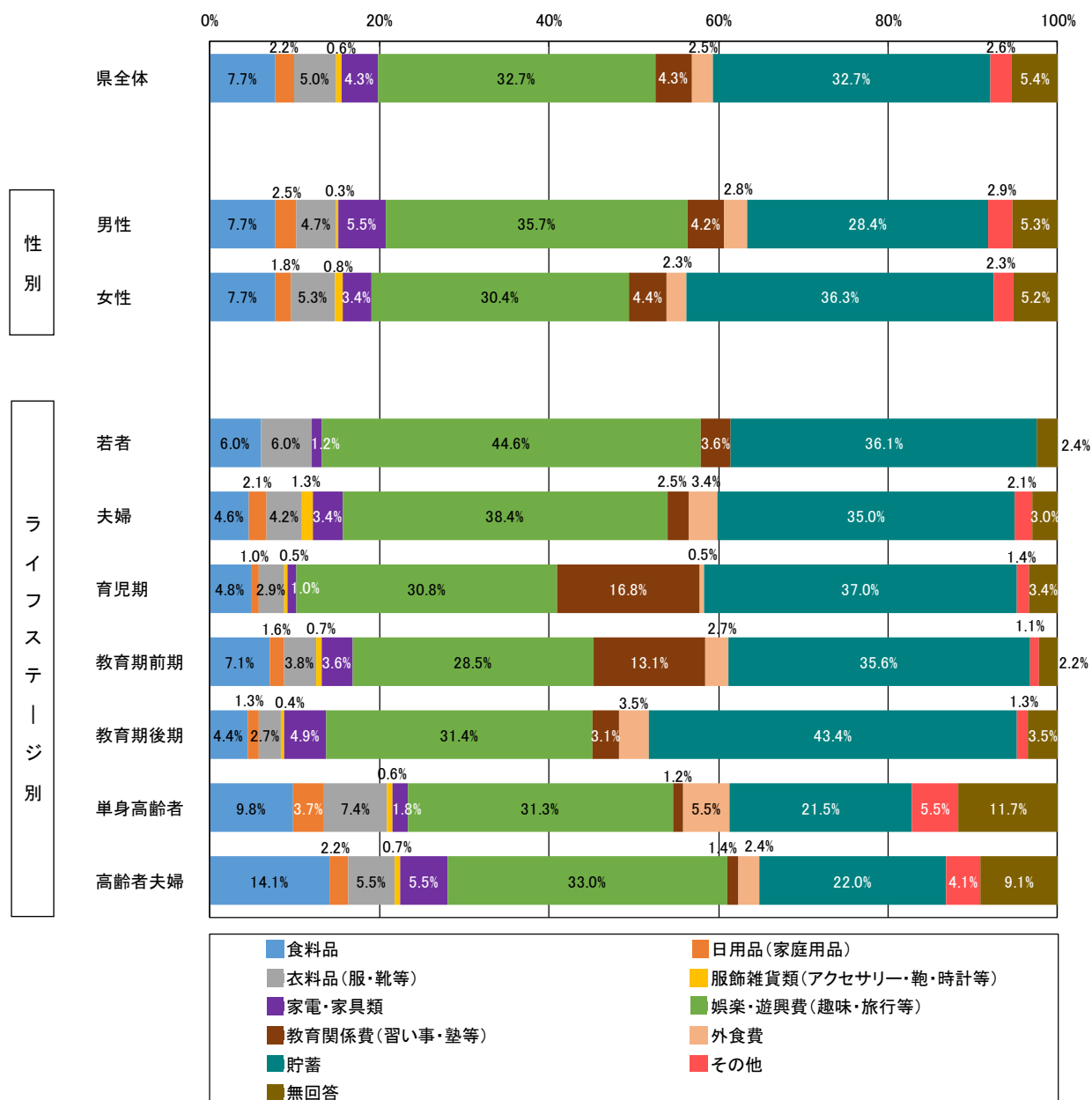
### ■これからの意識

- 消費税引き上げ後の買い物に対するこれからの意識については、「不要不急なものは購入しないようにする」（48.7%）が最も多く、次いで「増税前と変わらずに購入する」（19.0%）となっています。
- 性別にみると、『男性』『女性』ともに「不要不急なものは購入しないようにする」が最も多く、次いで「増税前と変わらずに購入する」となっています。
- ライフステージ別にみると、すべてのライフステージにおいて、「不要不急なものは購入しないようにする」が最も多く、次いで「増税前と変わらずに購入する」となっています。



### (3) 年間収入増の場合支出を増やしたい品物 (問14)

- 年間収入増の場合支出を増やしたい品物については、「娯楽・遊興費（趣味・旅行等）」「貯蓄」（同率で32.7%）が最も多く、次いで「食料品」（7.7%）となっています。
- 性別にみると、『男性』では「娯楽・遊興費（趣味・旅行等）」が最も多く、次いで「貯蓄」となっています。『女性』については「貯蓄」、「娯楽・遊興費（趣味・旅行等）」となっています。
- ライフステージ別にみると、『若者』『夫婦』『単身高齢者』『高齢者夫婦』では「娯楽・遊興費（趣味・旅行等）」が最も多く、次いで「貯蓄」となっています。『育児期』『教育期前期』『教育期後期』については「貯蓄」、「娯楽・遊興費（趣味・旅行等）」となっています。



## 3-2 観光の振興について

### (4) 奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるもの

(問 20 4つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるものについて尋ねたところ、「宿泊施設の充実」(46.4%)が最も多く、次いで「おいしい食べ物」(41.1%)、「魅力的なみやげ物」(36.3%)、「夜遅くまで営業している飲食店」(33.3%)、「十分な駐車場の確保」(30.3%)となっています。

■平成25年度と比較すると、すべての項目において増加しています。

■「宿泊施設の充実」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。

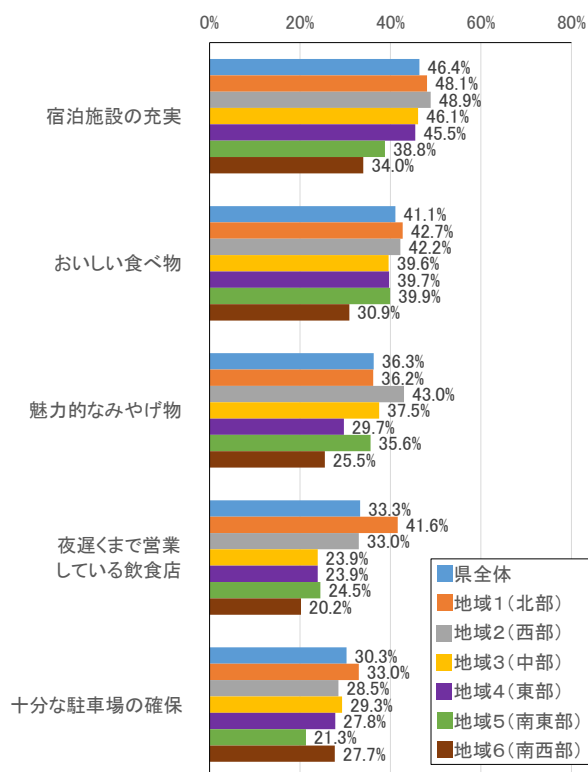
■「おいしい食べ物」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。

■「魅力的なみやげ物」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。

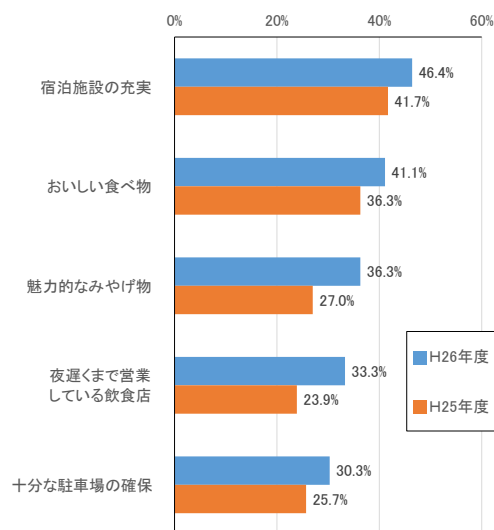
■「夜遅くまで営業している飲食店」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。

■「十分な駐車場の確保」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。

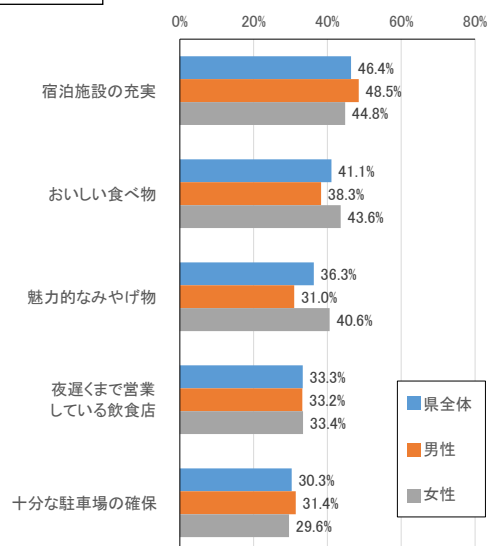
地域別



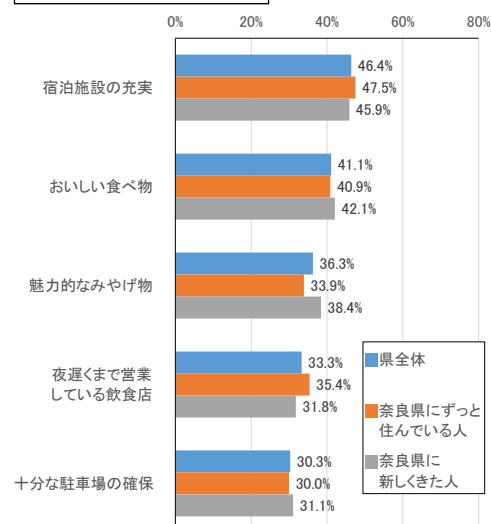
年度別



性別



旧住民・新住民別



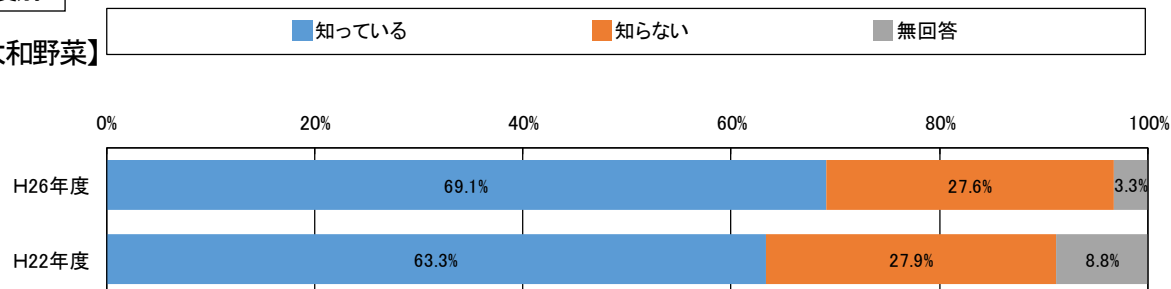
### 3-3 農林業の振興について

#### (1) 県内産ブランド食材の周知度（問21）

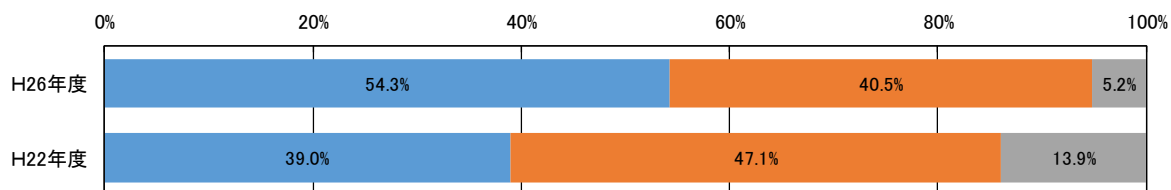
- 県内産ブランド食材の周知度については、「大和野菜」（69.1%）が最も高く、次いで「大和肉鶏」（58.4%）、「大和牛」（54.3%）、「ヤマトポーク」（44.1%）、「大和なでしこ卵」（12.3%）となっています。
- 平成 22 年度と比較すると、平成 22 年度データのない「大和なでしこ卵」をのぞくすべての県内産ブランド食材の周知度は高くなっています。
- 性別にみると、すべての県内産ブランド食材の周知度は、『男性』よりも『女性』のほうが高くなっています。
- 年齢別にみると、県内産ブランド食材の周知度は、「大和野菜」では『60 歳代』、「大和牛」「大和鶏肉」では『50 歳代』、「大和ポーク」では『40 歳代』、「大和なでしこ卵」では『70 歳代以上』が最も高くなっています。

##### 年度別

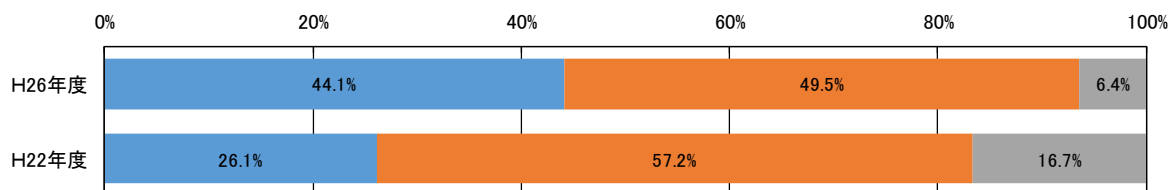
##### 【大和野菜】



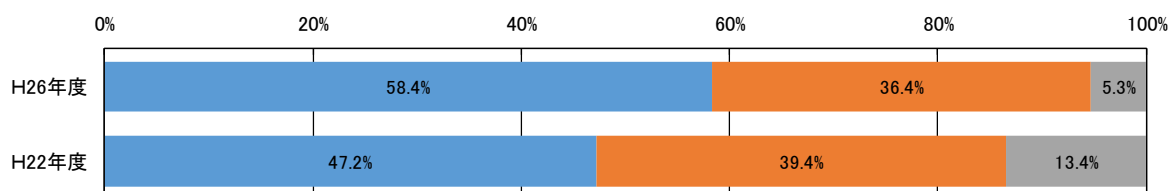
##### 【大和牛】



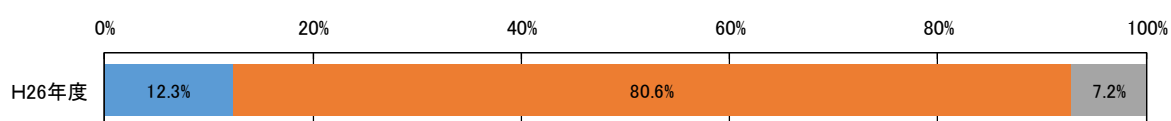
##### 【ヤマトポーク】



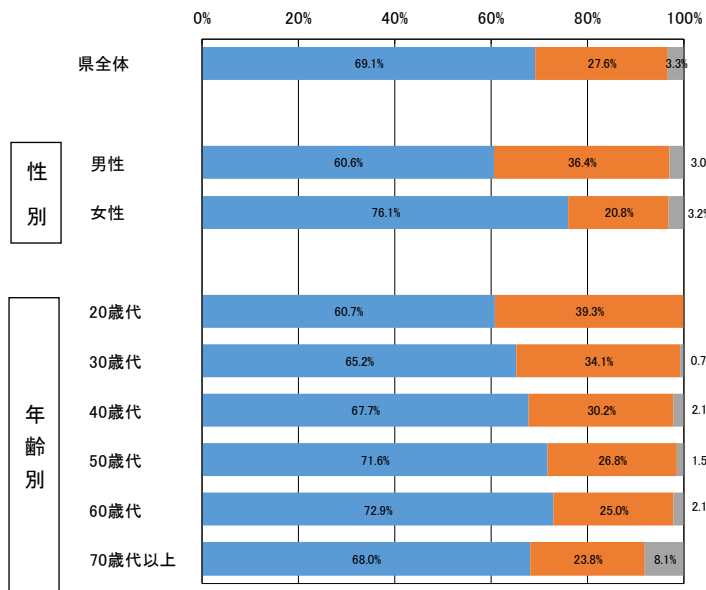
##### 【大和肉鶏】



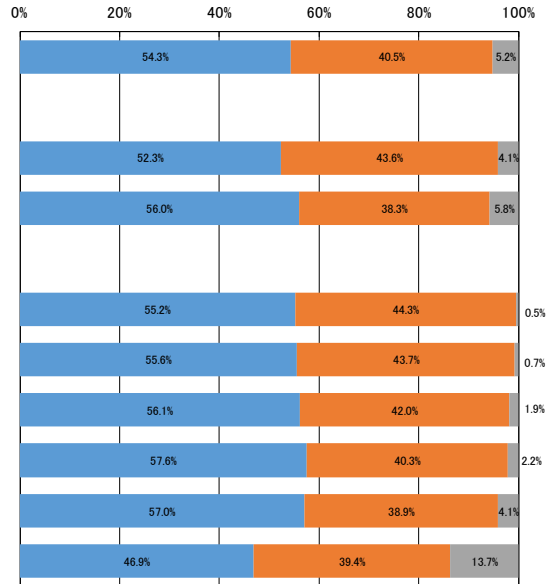
##### 【大和なでしこ卵】



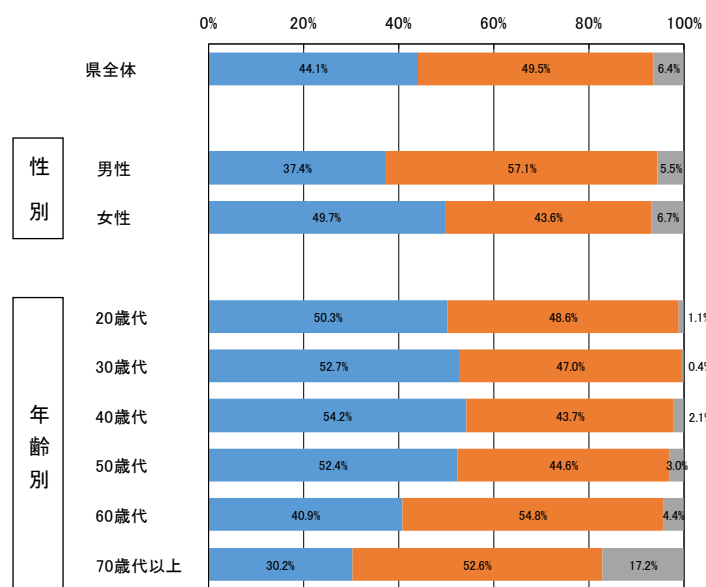
### 【大和野菜】



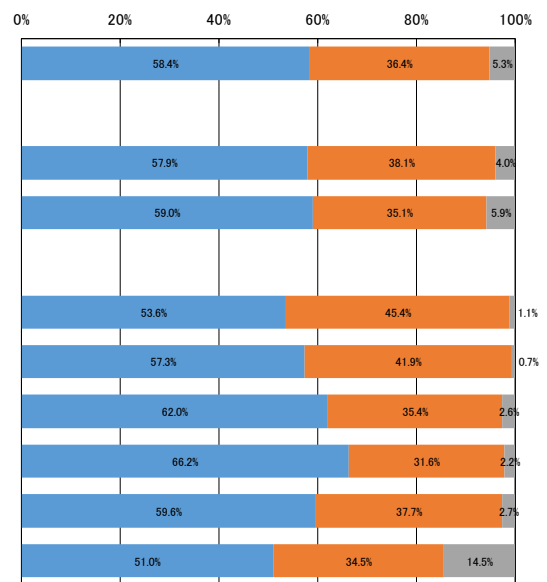
### 【大和牛】



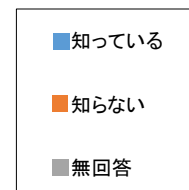
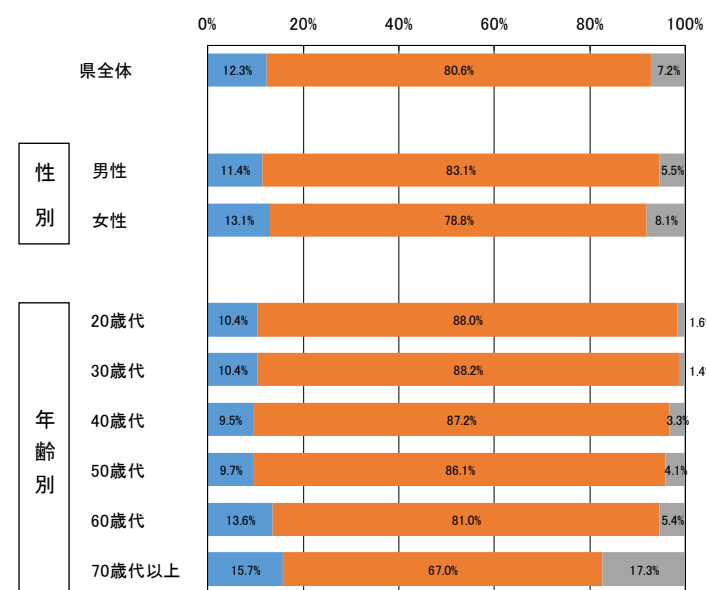
### 【ヤマトポーク】



### 【大和肉鶏】

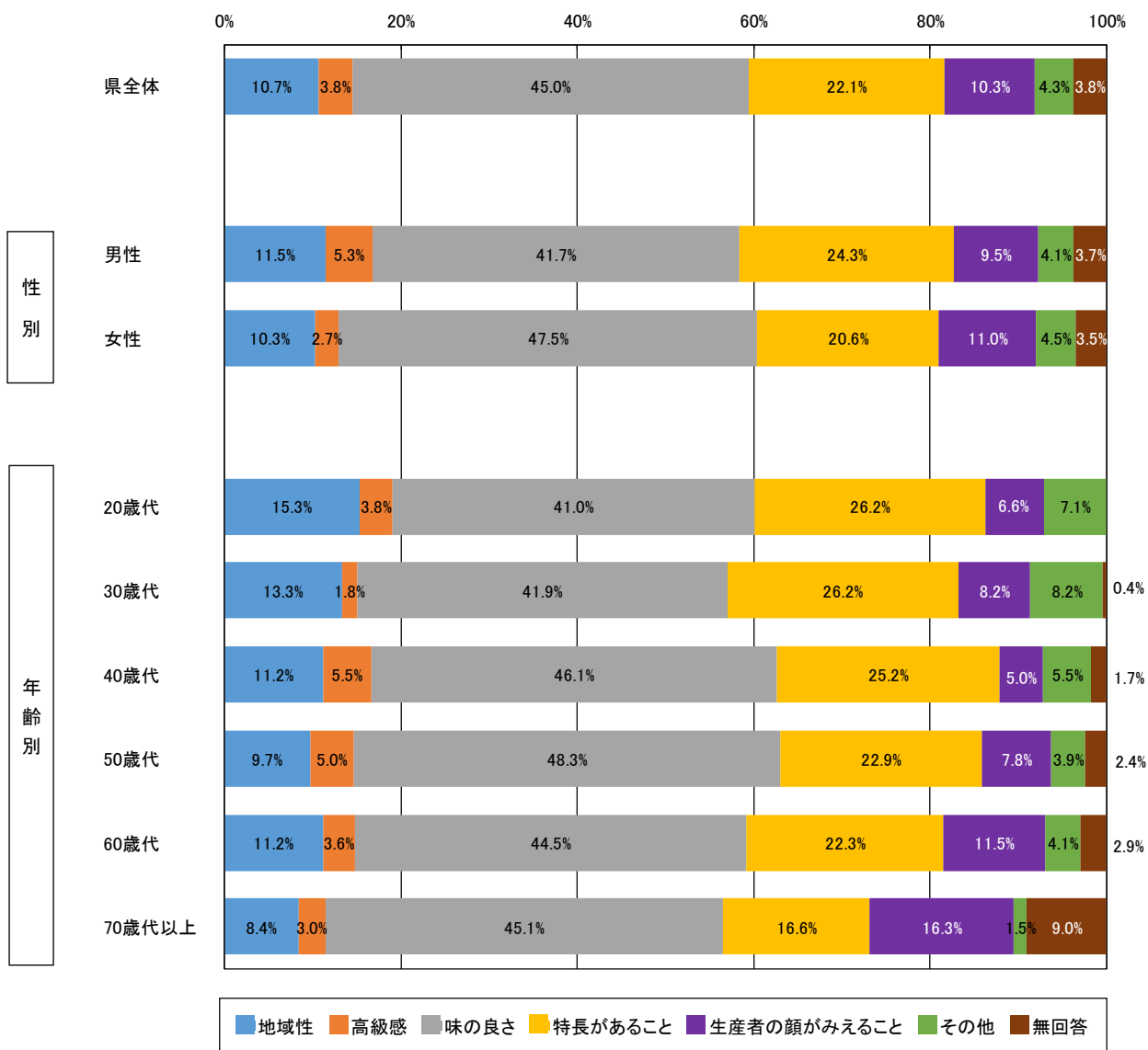


### 【大和なでしこ卵】



## (2) 県内産ブランド食材に必要なもの（問22）

- 県内産ブランド食材に必要なものについては、「味の良さ」（45.0%）が最も多く、次いで「特長があること」（22.1%）となっています。
- 性別にみると、『男性』『女性』とも「味の良さ」が最も多く、次いで「特長があること」となっています。
- 年齢別にみると、すべての年齢において「味の良さ」が最も多く、次いで「特長があること」となっています。

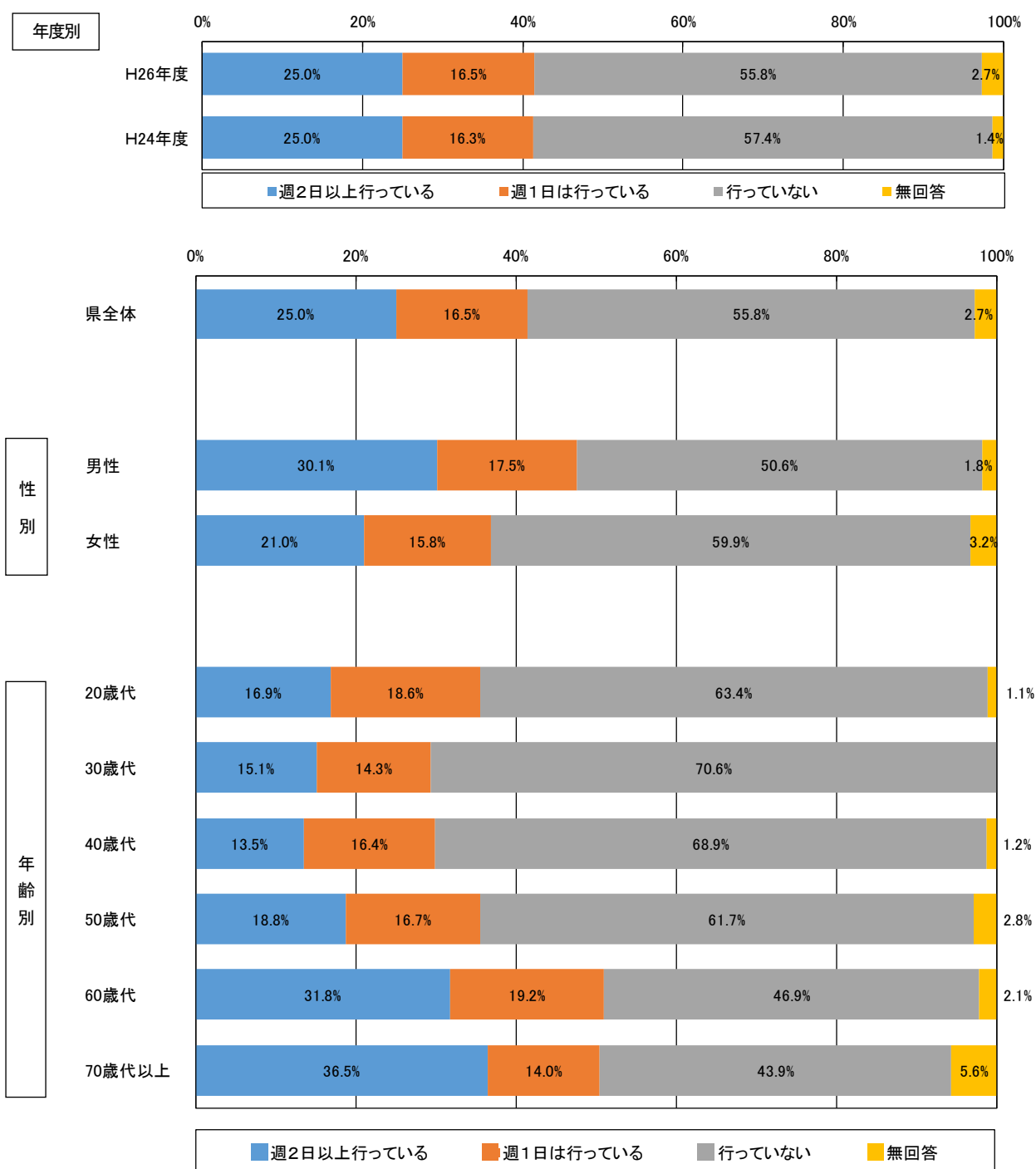




### 3-4 健康づくりの推進やスポーツの振興について

#### (1) 過去1年以上、継続して30分以上の運動の頻度（問24）

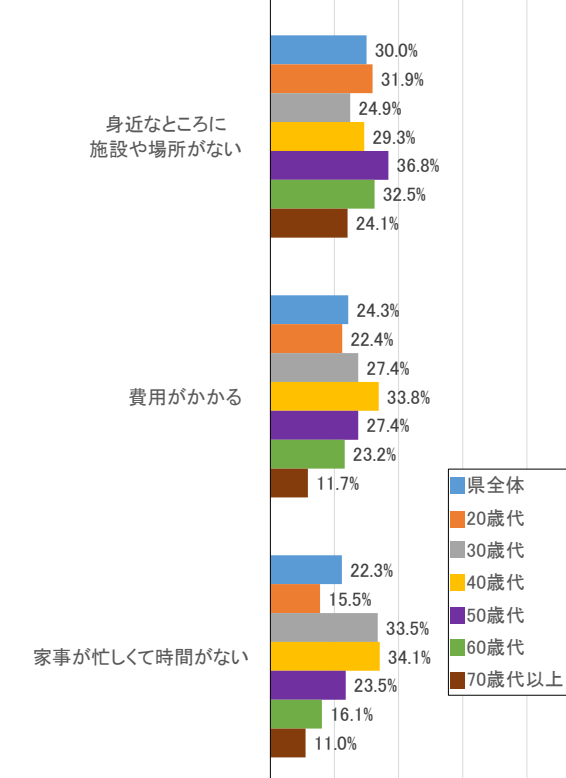
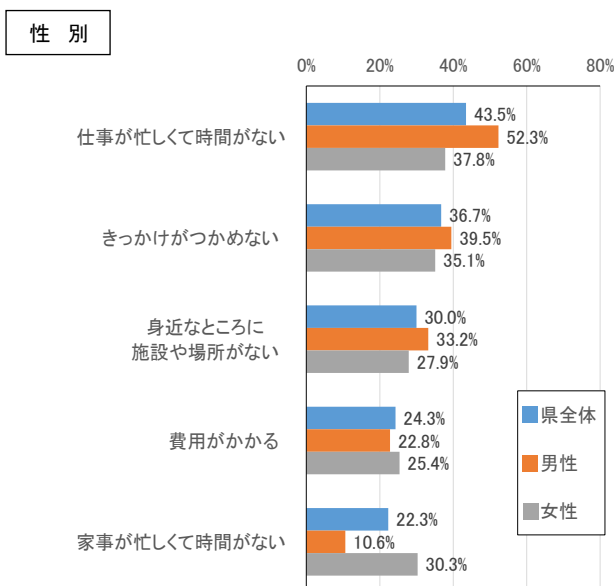
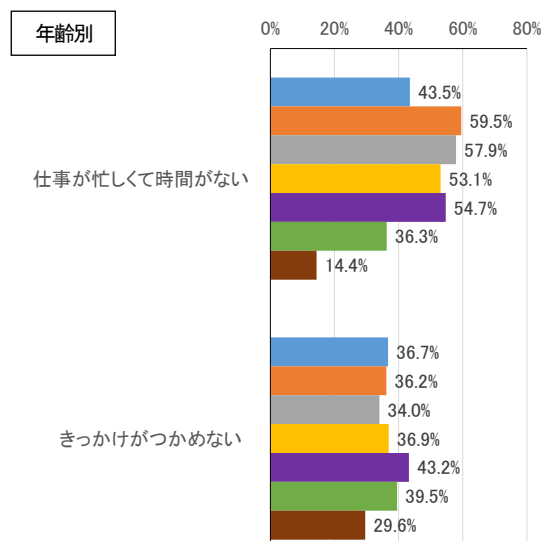
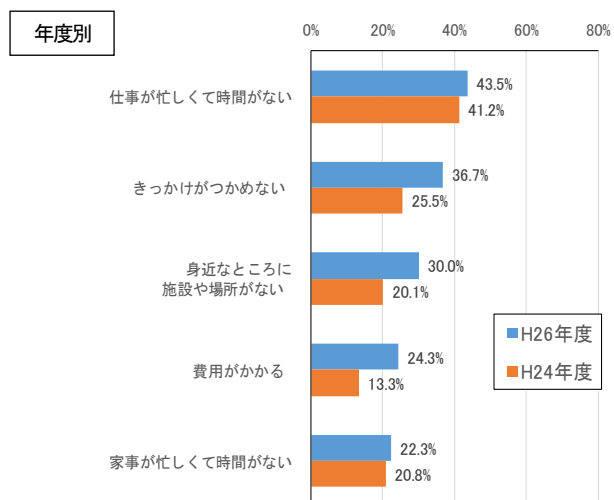
- 過去1年以上、継続して30分以上の運動の頻度については、「行っていない」と答えた人（55.8%）が「行っている」（「週2日以上行っている」＋「週1日は行っている」）（41.5%）と答えた人に比べ、多くなっています。
- 平成24年度と比較すると、すべての項目においてほぼ同様となっています。
- 性別にみると、「行っている」と答えた人は、『男性』が『女性』に比べ、多くなっています。
- 年齢別にみると、「行っている」と答えた人は『60歳代』が最も多く、次いで『70歳代以上』となっています。



## (2) 過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由

(問 26 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由について尋ねたところ、「仕事が忙しくて時間がない」(43.5%)が最も多く、次いで「きっかけがつかめない」(36.7%)、「身近なところに施設や場所がない」(30.0%)、「費用がかかる」(24.3%)、「家事が忙しくて時間がない」(22.3%)となっています。
- 「きっかけがつかめない」(36.7%)と答えた人については、平成24年度(22.6%)に比べ14.1ポイント増加しています。
- 「仕事が忙しくて時間がない」と答えた人については、性別では『男性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「きっかけがつかめない」「身近なところに施設や場所がない」と答えた人については、性別では『男性』が多く、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「費用がかかる」「家事が忙しくて時間がない」と答えた人については、性別では『女性』が多く、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。

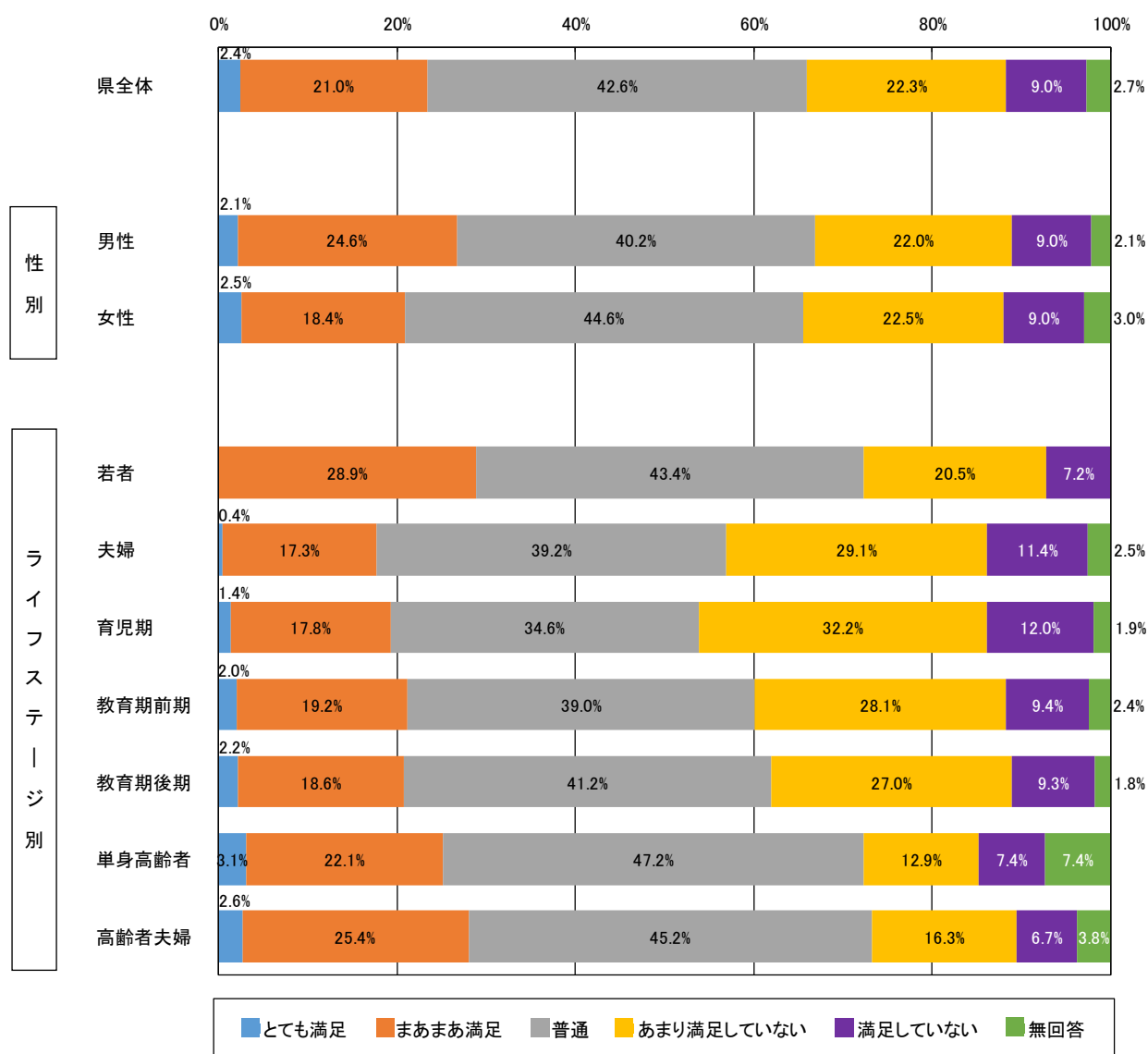


(注) 平成22年度調査と選択肢の一部に違いがあるため単純比較できない。

### 3-5 医療・福祉の充実について

#### (1) 奈良県の医療環境への満足度（問27）

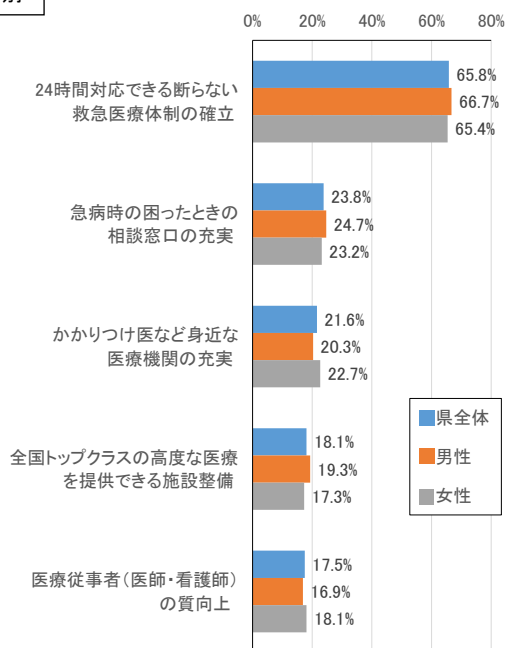
- 奈良県の医療環境への満足度については、「普通」と感じている人（42.6%）が最も多く、次いで「満足していない」（「あまり満足していない」＋「満足していない」と感じている人（31.3%）となっています。
- 性別にみると、「満足している」（「とても満足」＋「まあまあ満足」）と感じている人は、『男性』（26.7%）が『女性』（20.9%）比べ多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「満足している」と感じている人は、『若者』（28.9%）が最も多く、次いで『高齢者夫婦』（28.0%）となっています。



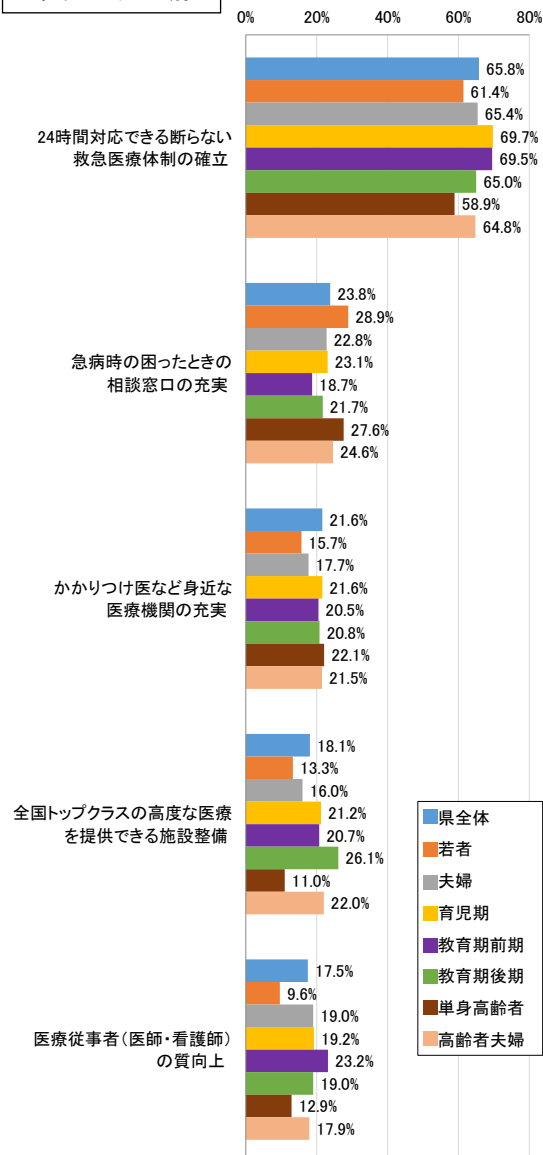
## (2)医療環境向上のために、今後重点的に取り組むべきこと (問 28 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 医療環境向上のために、今後重点的に取り組むべきことについて尋ねたところ、「24 時間対応できる断らない救急医療体制の確立」(65.8%) が最も多く、次いで「急病時の困ったときの相談窓口の充実」(23.8%)、「かかりつけ医など身近な医療機関の充実」(21.6%)、「全国トップクラスの高度な医療を提供できる施設設備」(18.1%)、「医療従事者(医師・看護師)の質の向上」(17.5%) となっています。
- 「24 時間対応できる断らない救急医療体制の確立」と答えた人については、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。
- 「急病時の困ったときの相談窓口の充実」と答えた人については、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『若者』が最も多くなっています。
- 「かかりつけ医など身近な医療機関の充実」と答えた人については、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多くなっています。
- 「全国トップクラスの高度な医療を提供できる施設設備」と答えた人については、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多くなっています。
- 「医療従事者(医師・看護師)の質の向上」と答えた人については、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多くなっています。

性 別

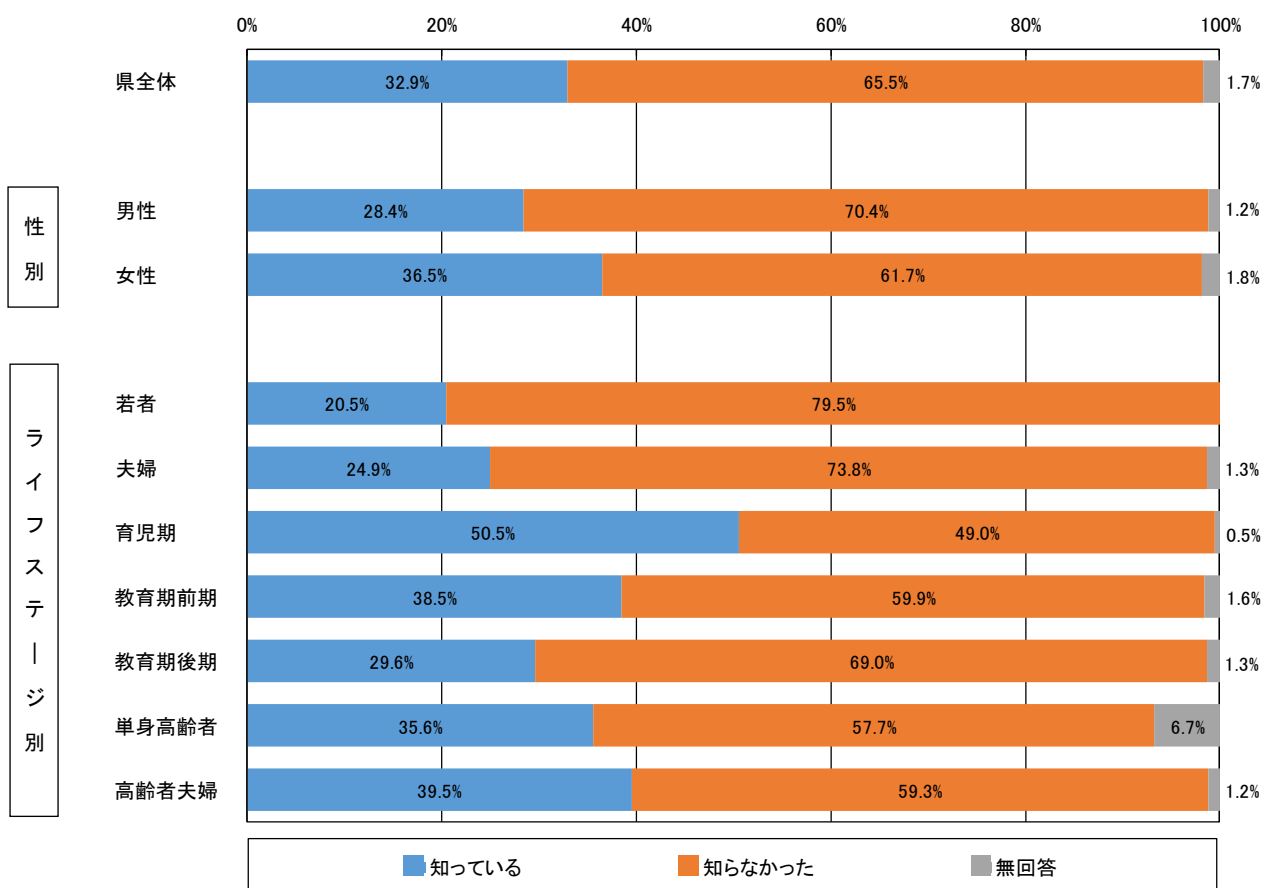
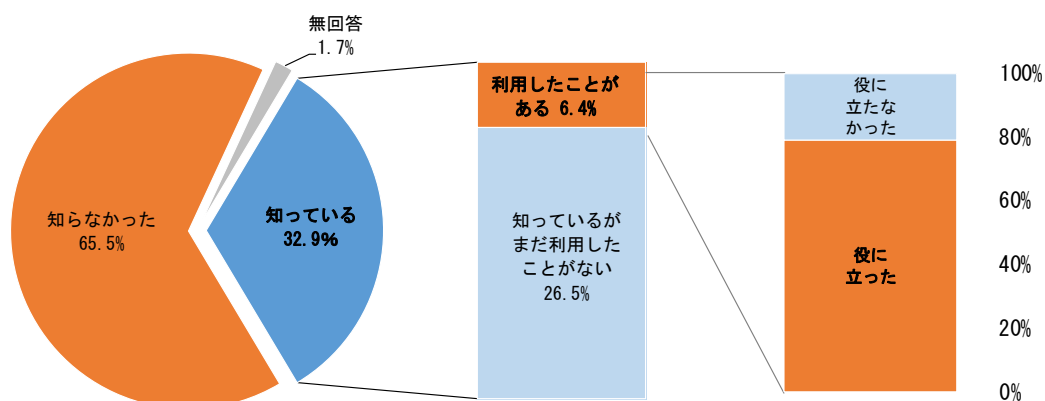


ライフステージ別



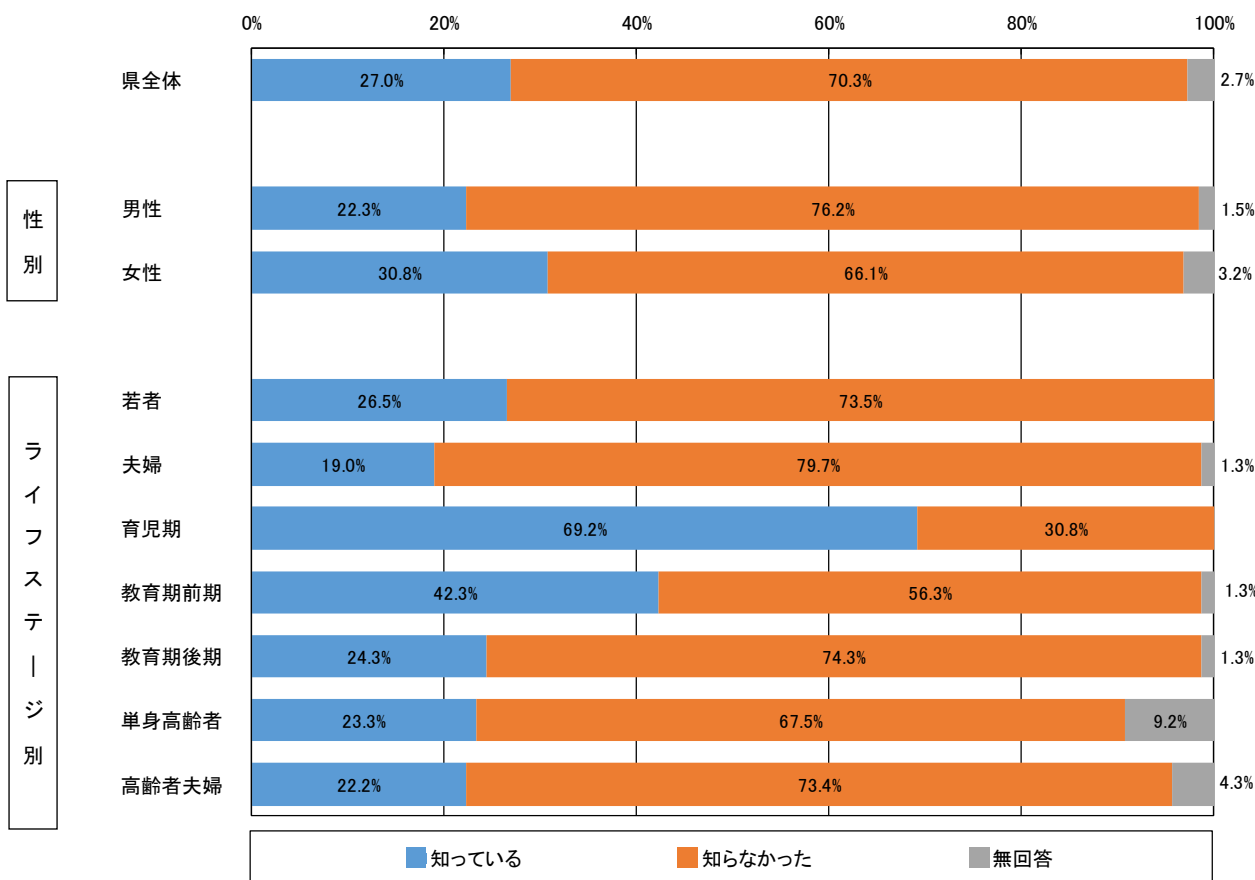
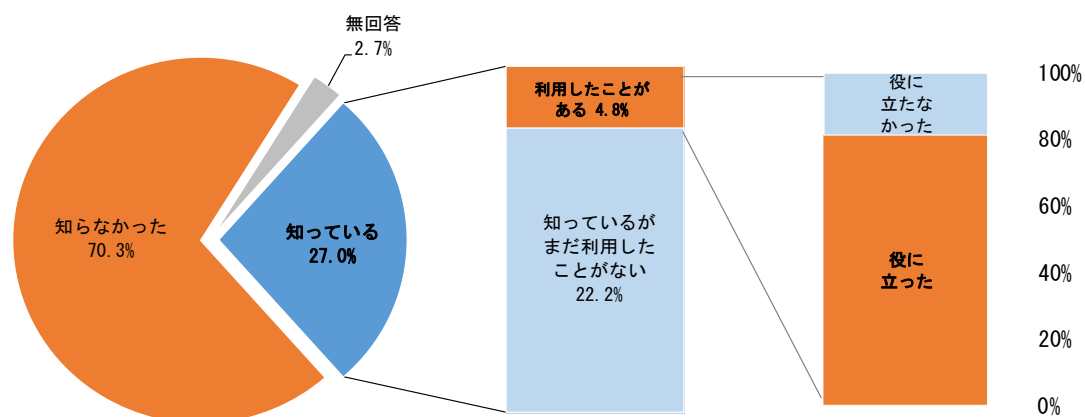
### (3) 奈良県救急安心センター相談ダイヤル（#7119）の周知度（問29）

- 奈良県救急安心センター相談ダイヤル（#7119）の周知度については、「知らなかった」（65.5%）が「知っている」（「利用したことがあり、役に立った」＋「利用したことがあり、役に立たなかった」＋「知っているが、まだ利用したことがない」）（32.9%）より多くなっています。また、「利用したことがある」と答えた人のなかで「役に立った」と感じている人は約80%となっています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』が『男性』に比べ多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「知っている」と答えた人は『育児期』が最も多く、次いで『高齢者夫婦』となっています。



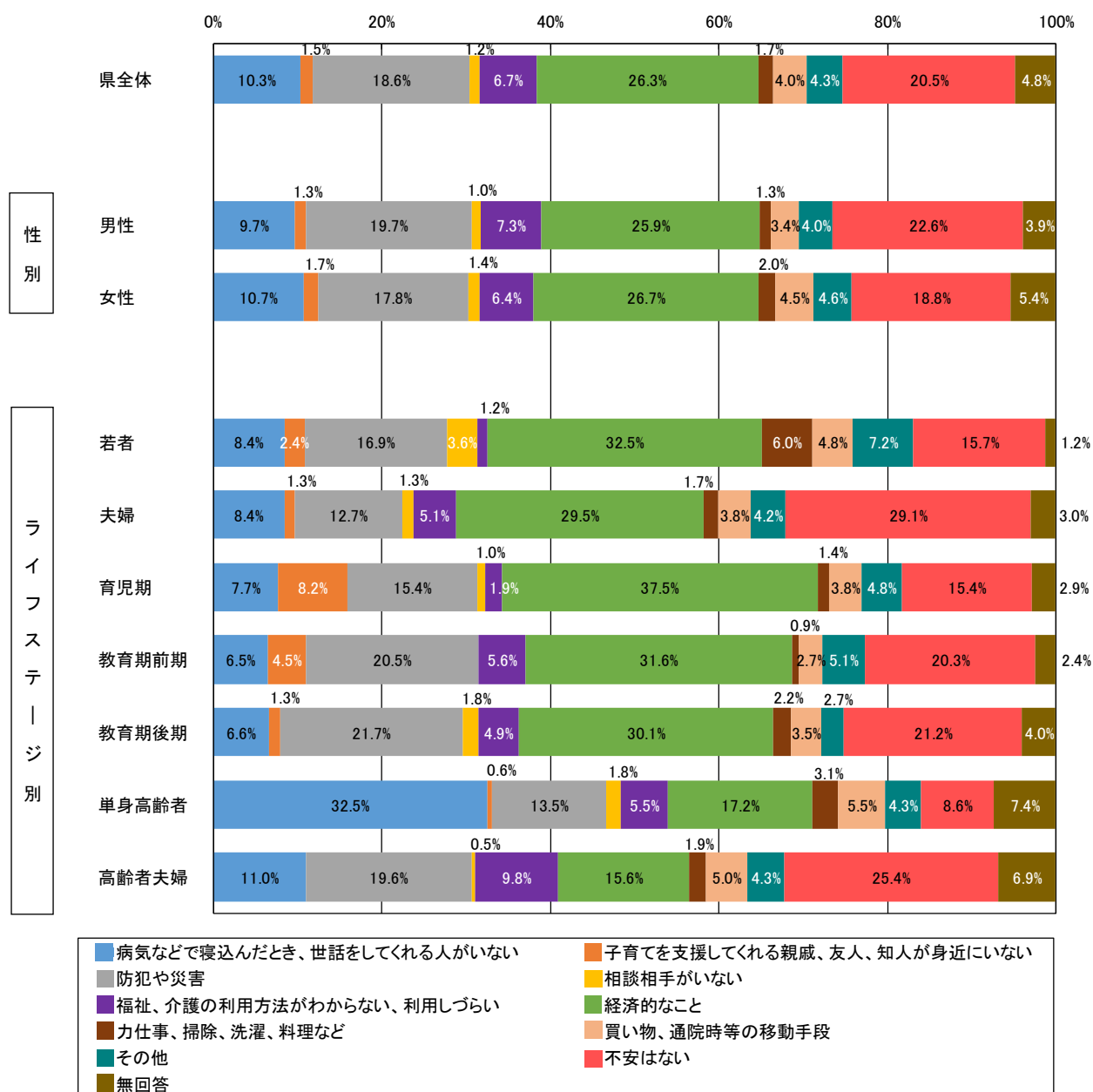
#### (4) こども救急電話相談（＃8000）の周知度（問 30）

- こども救急電話相談（＃8000）の周知度については、「知らなかった」（70.3%）が「知っている」（「利用したことがあり、役に立った」＋「利用したことがあり、役にたたなかった」＋「知っているが、まだ利用したことがない」）（27.0%）より多くなっています。また、「利用したことがある」と答えた人のなかで約80%が「役に立った」と感じています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』が『男性』に比べ多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「知っている」と答えた人は『育児期』が最も多く、次いで『教育期前期』となっています。



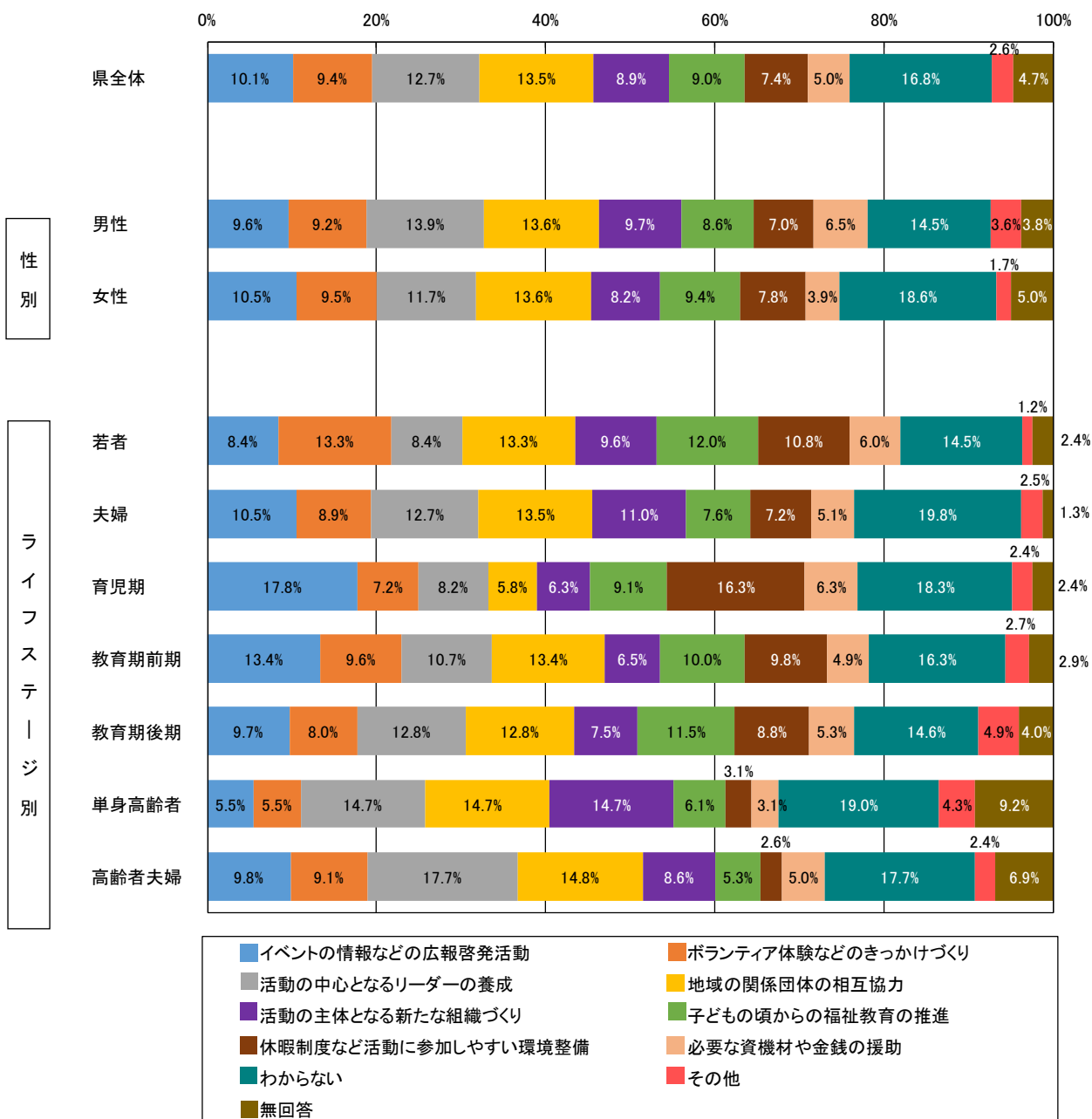
## (5) 日常生活で困っていること、不安なこと（問31）

- 日常生活で困っていること、不安なことについては、「経済的なこと」（26.3%）が最も多く、次いで「不安はない」（20.5%）となっています。
- 性別にみると、『男性』『女性』ともに『県全体』の傾向と概ね同様となっています。
- ライフステージ別にみると、『単身高齢者』『高齢者夫婦』をのぞくライフステージにおいて「経済的なこと」が最も多くなっています。『単身高齢者』については「病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいない」が最も多く、『高齢者夫婦』については「不安はない」が最も多くなっています。



## (6) 住民相互の支え合い活動を盛んにするためや、参加しやすくするために必要だと思うこと (問 34)

- 住民相互の支え合い活動を盛んにするためや、参加しやすくするために必要だと思うことについては、「わからない」(16.8%)が最も多く、次いで「地域の関係団体の相互協力」(13.5%)となっています。
- 性別にみると、『男性』『女性』ともに『県全体』の傾向と概ね同様となっています。また、「わからない」については『女性』(18.6%)が『男性』(14.5%)に比べ多くなっています。
- ライフステージ別にみると、すべてのライフステージにおいて「わからない」が最も多くなっています。また、『育児期』については「イベントの情報などの広報啓発活動」(17.8%)、「休暇制度など活動に参加しやすい環境整備」(16.3%)が他のライフステージに比べ多くなっています。

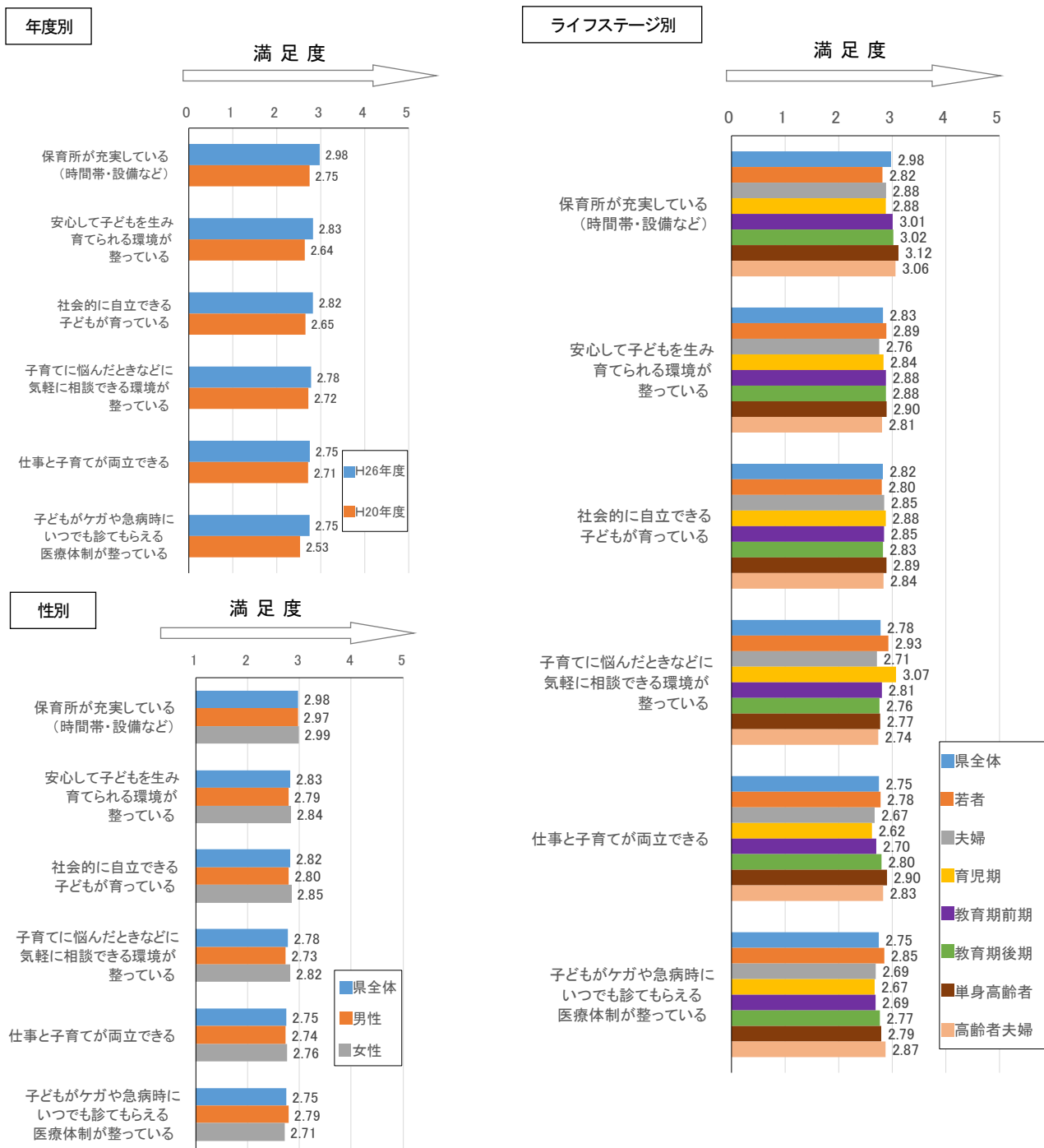




### 3-6 こども支援の充実について

#### (1) 子育てに関する満足度について（問 35 5段階ポイント評価 県全体についての上位順を掲載）

- 子育てに関する満足度については、「保育所が充実している（時間帯・設備など）」（2.98 ポイント）が最も高く、次いで「安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」（2.83 ポイント）となっています。
- 平成 20 年度と比較すると、すべての項目において満足度が高くなっています。
- 「子育てに悩んだときなどに気軽に相談できる環境が整っている」「子どもがケガや急病時にいつでも診てもらえるよう医療体制が整っている」をのぞくすべての項目において、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も高く、「子育てに悩んだときなどに気軽に相談できる環境が整っている」では『育児期』（3.07 ポイント）、「子どもがケガや急病時にいつでも診てもらえるよう医療体制が整っている」については『高齢者夫婦』（2.87 ポイント）が最も多くなっています。性別では『女性』が高く、「子育てに悩んだときなどに気軽に相談できる環境が整っている」では『女性』（2.82 ポイント）、「子どもがケガや急病時にいつでも診てもらえるよう医療体制が整っている」については『男性』（2.79 ポイント）と高くなっています。

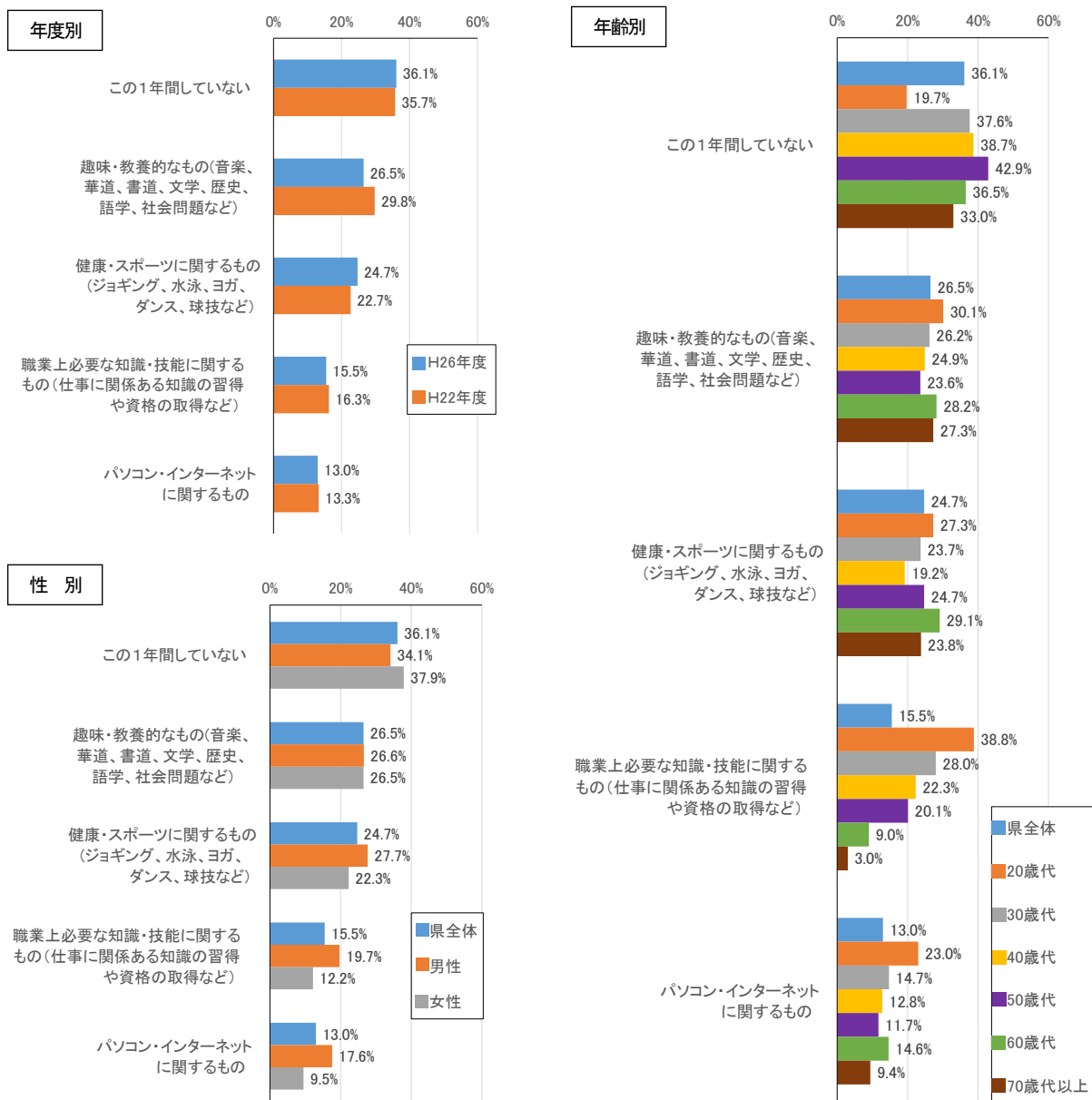


### 3-7 学びの支援について

#### (1) この1年に自ら進んで行った学習活動

(問 36-① あてはまるものすべて複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- この1年に自ら進んで行った学習活動について尋ねたところ、「この1年間していない」(36.1%)が最も多く、次いで「趣味・教養的なもの(音楽、華道、書道、文学、歴史、語学、社会問題など)」(26.5%)、「健康・スポーツに関するもの(ジョギング、水泳、ヨガ、ダンス、球技など)」(24.7%)、「職業上必要な知識・技能に関するもの(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)」(15.5%)、「パソコン・インターネットに関するもの」(13.0%)となっています。
- 「この1年間していない」「健康・スポーツに関するもの(ジョギング、水泳、ヨガ、ダンス、球技など)」と答えた人の割合は、平成22年度に比べ多くなっています。
- 「この1年間していない」と答えた人については、性別では『女性』が多く、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「趣味・教養的なもの(音楽、華道、書道、文学、歴史、語学、社会問題など)」「職業上必要な知識・技能に関するもの(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)」「パソコン・インターネットに関するもの」と答えた人については、性別では『男性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「健康・スポーツに関するもの(ジョギング、水泳、ヨガ、ダンス、球技など)」と答えた人については、性別では『男性』が多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。



## (2) 学習活動を行うために効果的だと思うこと

(問 38 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■ 学習活動を行うために効果的だと思うことについて尋ねたところ、「多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす」(50.3%)が最も多く、次いで「開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する」(44.6%)、「開催してほしい講座や、場所など希望を把握するよう努める」(30.9%)、「地域の中に指導者を養成する」(16.2%)、「生涯学習の重要性・必要性等の意識啓蒙を行う」(15.5%)となっています。

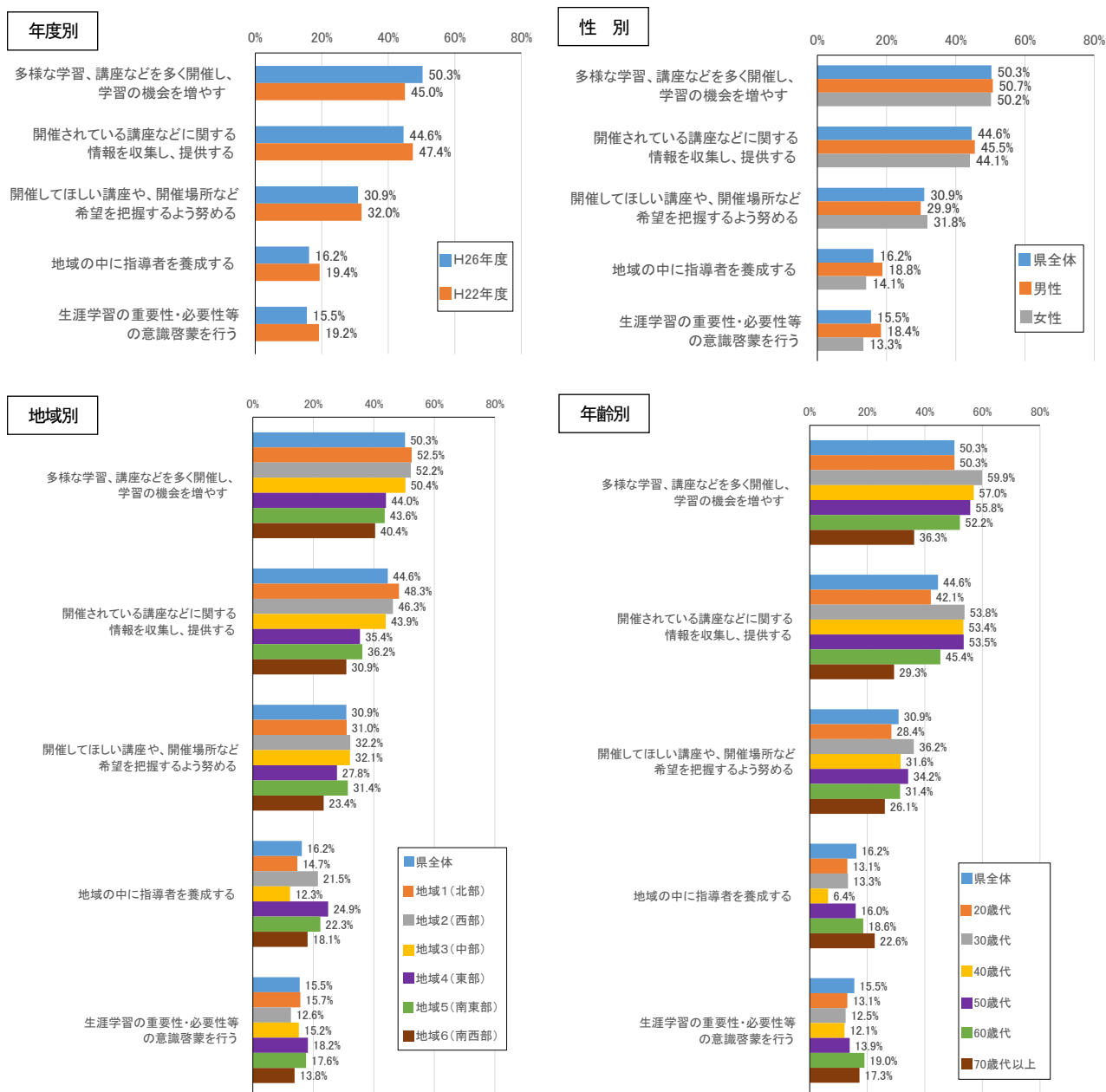
■ 「多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす」(50.3%)と答えた人については、平成22年度(45.0%)に比べ多くなっています。一方で、他の項目では少なくなっています。

■ 「多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす」「開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域1(北部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。

■ 「開催してほしい講座や、開催場所など希望を把握するよう努める」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。

■ 「地域の中に指導者を養成する」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。

■ 「生涯学習の重要性・必要性等の意識啓蒙を行う」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。

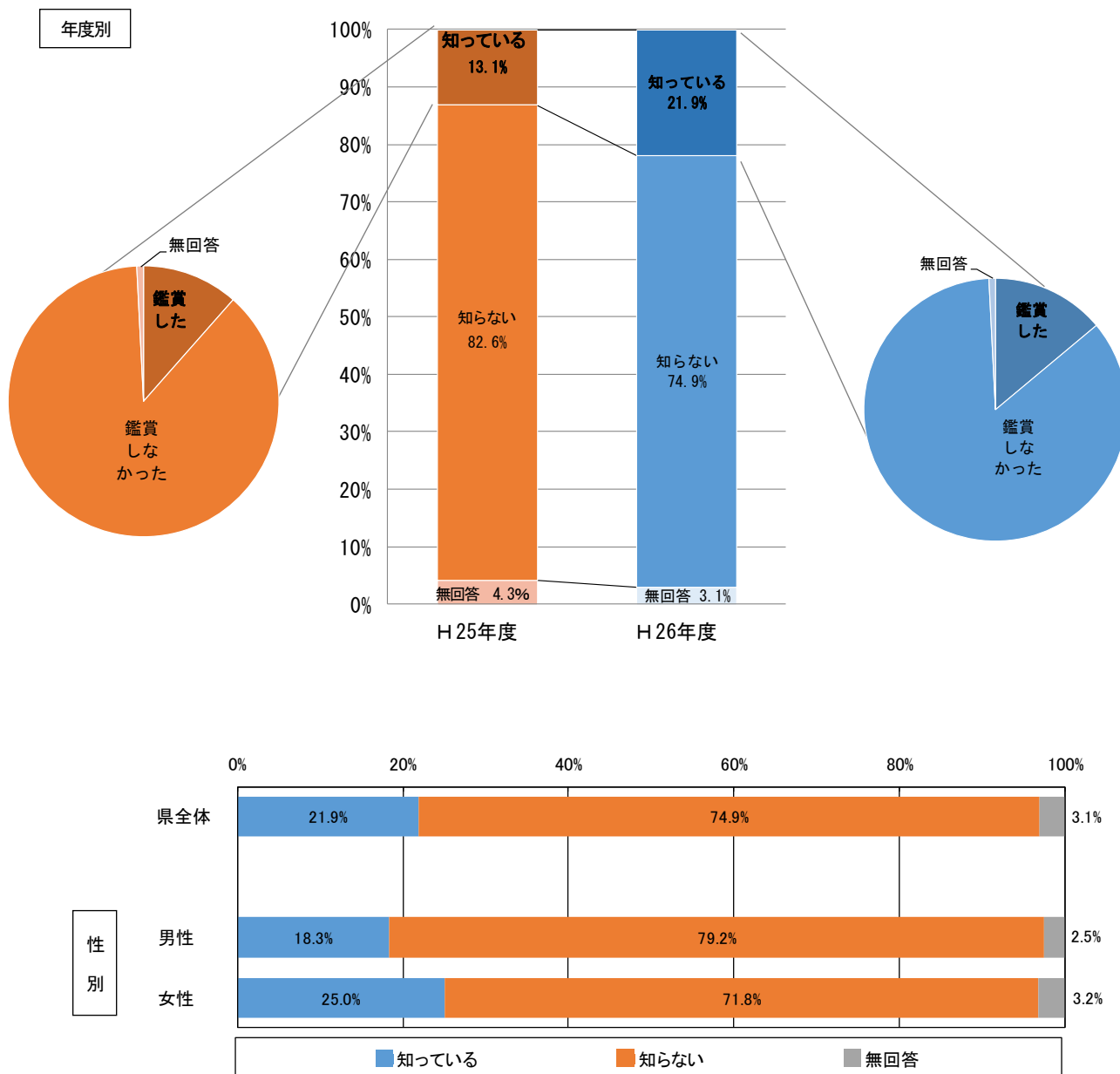


(注) 平成22年度調査と選択肢の一部に違いがあるため単純比較できない。

### 3-8 文化の振興について

#### (1) ムジークフェストならの周知度・鑑賞の有無（問39・問40）

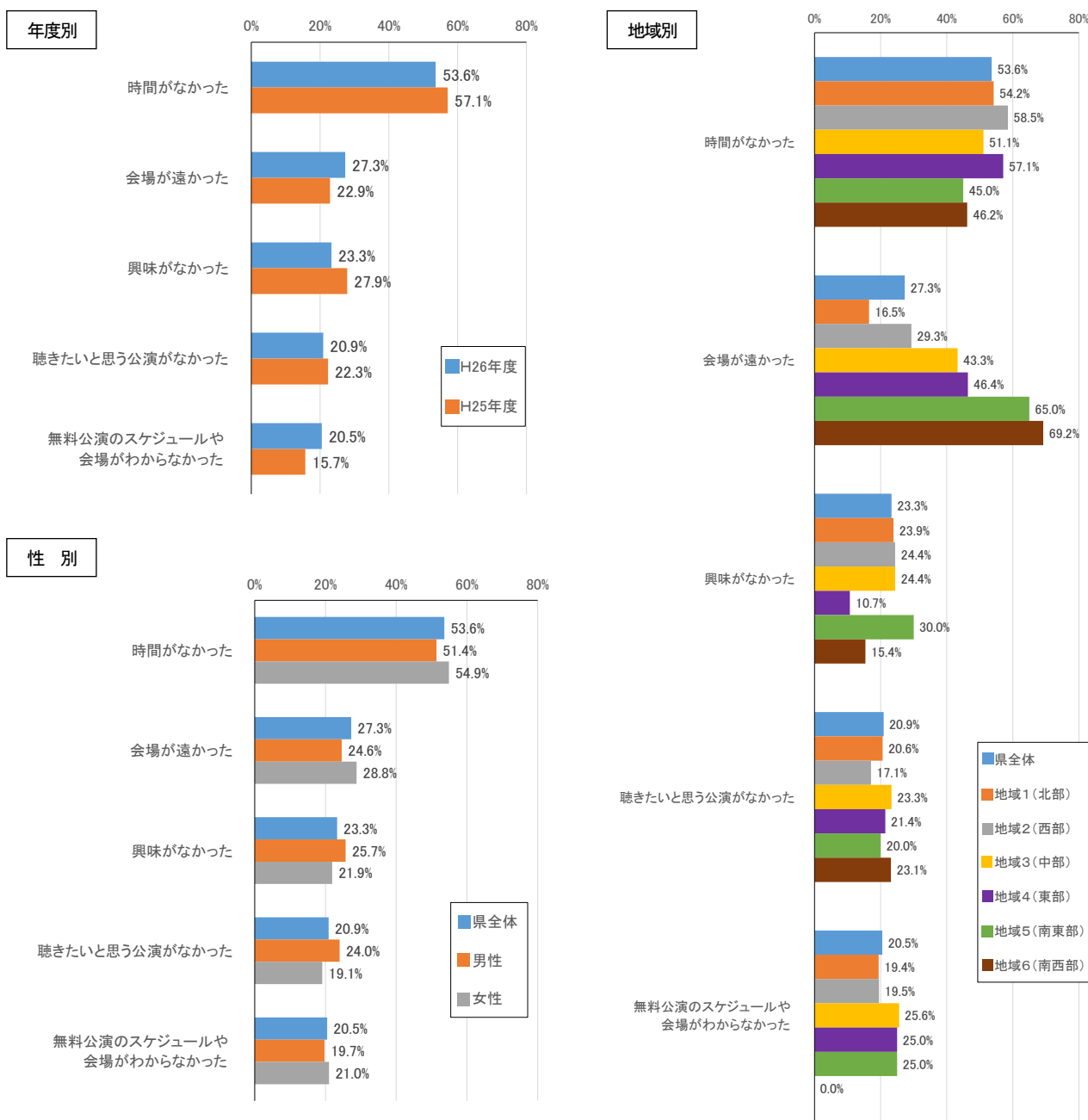
- ムジークフェストならの周知度・鑑賞の有無については、「知らない」(74.9%)が「知っている」(21.9%)より多くなっています。
- 「知っている」(21.9%)と答えた人は、平成25年度(13.1%)に比べ8.8ポイント増加しています。また、「知っている」と答えた人のなかで「鑑賞しなかった」人は、約85%となっています。
- 性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』(25.0%)が『男性』(18.3%)に比べ多くなっています。



### (3) ムジークフェストならを鑑賞しなかった理由

(問 41 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

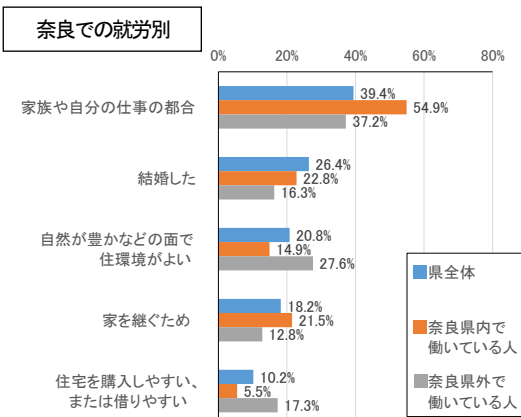
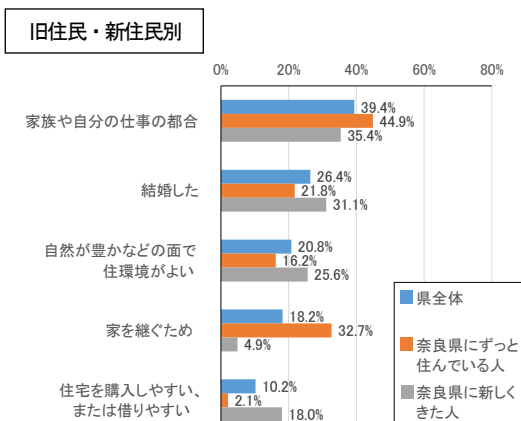
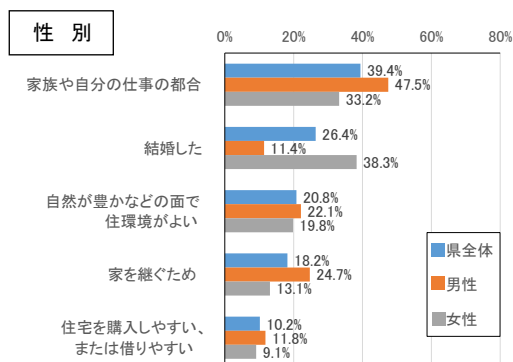
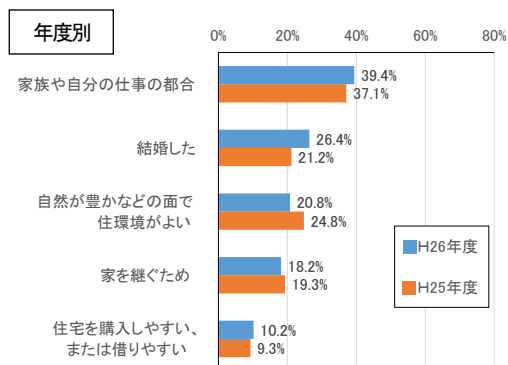
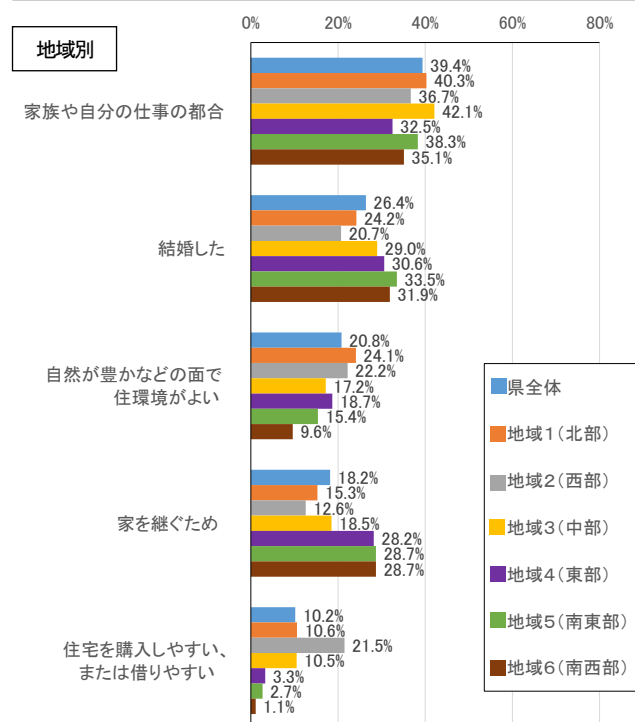
- ムジークフェストならを鑑賞しなかった理由について尋ねたところ、「時間がなかった」(53.6%)が最も多く、次いで「会場が遠かった」(27.3%)、「興味がなかった」(23.3%)、「聴きたいと思う公演がなかった」(20.9%)、「無料公演のスケジュールや会場がわからなかった」(20.5%)となっています。
- 「無料公演のスケジュールや会場がわからなかった」(20.5%)と答えた人については、平成25年度(15.7%)に比べ4.8ポイント増加しています。
- 「時間がなかった」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域2(西部)』が最も多くなっています。
- 「会場が遠かった」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域6(南西部)』が最も多くなっています。
- 「興味がなかった」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域5(南東部)』が最も多くなっています。
- 「聴きたいと思う公演がなかった」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域3(中部)』が最も多くなっています。
- 「無料公演のスケジュールや会場がわからなかった」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域3(中部)』が最も多くなっています。



### 3-9 回答者について

#### (1) 奈良県での居住理由（問49 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」（39.4%）が最も多く、次いで「結婚した」（26.4%）、「自然が豊かななどの面で住環境がよい」（20.8%）、「家を継ぐため」（18.2%）、「住宅を購入しやすい、または借りやすい」（10.2%）となっています。
- 「結婚した」（26.4%）と答えた人については、平成25年度（21.2%）に比べ5.2ポイント増加しています。
- 「家族や自分の仕事の都合」と答えた人については、地域別では『地域3（中部）』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚した」と答えた人については、地域別では『地域5（南東部）』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよい」と答えた人については、地域別では『地域1（北部）』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家を継ぐため」と答えた人については、地域別では『地域5（南東部）』『地域6（南西部）』（同率で28.7%）が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「住宅を購入しやすい、または借りやすい」と答えた人については、地域別では『地域2（西部）』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



---

平成 26 年度  
県民アンケート調査  
報 告 書

平成 26 年 11 月

奈良県総務部知事公室統計課  
〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地  
電話 0742-27-8439

---